



<教育目標>

英知の風かおり 友愛の情ふかく 精励の志つねに

中野中学校だより

平成 28 年 5 月 9 日発行

No. 3 校長 矢口 仁

“読書ゼロ”から見えること —大学生の実態— 校長 矢口 仁

つつじ咲きて石移したるうれしきよ 与謝 蕪村

風薫る5月になりました。5日は「立夏」、暦の上では夏になりましたが、空気が爽やかで、学習・運動などに絶好の季節の到来です。授業や部活動、学校の行事に主体的に取り組み、自己を成長させていってほしいと思います。



今回は、読書の話です。学生生活実態調査（2014年2月）によると、大学生の読書時間は平均26.9分で、読書ゼロの学生が40.5%に達しているということでした。スマートフォン等がこれだけ普及し、子どもの時からパソコン・ゲームに慣れ親しんでいる状況では仕方のないことかもしれません。しかし、私は危機感をもっています。

NHKの番組で「広がる“読書ゼロ”～日本人に何が～」を特集で取り上げていました。大学生6名に「英語の早期教育は必要か？1500字以内でまとめなさい。」という課題を出しました。そのうち4名は「読書時間ゼロ」の学生です。課題をまとめるために、インターネットや図書館の本を自由に利用できる環境の中でのことでした。

最初、全員がインターネットで「英語の早期教育」で検索を始めます。そのうち一人が図書館へ向かいました。一日2時間読書をする学生です。ネット記事の参考文献を2冊捜し、さらに、違う本を2冊手にして読み始めました。

読書時間ゼロの学生はインターネットを続け、見出しとその概要から必要なところをコピーして貼り付け、小論文を完成させていきました。このネットだけの小論文の方が、圧倒的に早く仕上がりました。しかし、引用が「夏目漱石の英語論」「母語の発達」「グローバル化」等、多岐にわたり、自分の意見がほとんどありませんでした。

一方、普段本を読んでいる学生は、本から根拠を捜して意見をまとめようと試みしました。「英語の早期教育が必要」という主張に根拠があるのかを本から探そうとし、逆に「大人になっても外国語の取得は可能」という研究成果を見つけました。結局、それを中心に「英語の早期教育に重点を置いて、他の教科をおろそかにすべきではない。」と自分の意見をまとめあげました。

情報化の時代にあって、インターネットを活用することは必要です。しかし、それだけでは、情報処理能力に長けても、自己の考えをまとめ、表現をするには至らないようです。そこに、多面的な考えに触れながら、時間をかけて主体的に考える読書の必要性があります。本校では、今後も読書指導を大切にしていきたいと思います。